

昨年度インターンシップ参加者の声

- 経済産業省の日々取り組み、考えられていることがどんな事であるかが少し理解でき、そして、**日本政府として国を動かしていくことの面白さを肌で感じることができました。**（女性・学部生）
- 国での政策づくりは、一企業を顧客にするだけではなく、**産業界全体、経済活動全体をみななければならないという視野の広さが実感できた。**（男性・学部生）
- 政策立案のプロセスとして、**現状認識や課題点の発見を行うことが重要で、議論を多く交わす中で新たな視点を発見できたり、深めたりして最終的に提案の形までまとめられたことが印象に残りました。**（女性・学部生）
- 政策を実際に提案するという一連の過程を通じて、**自分たちで知らないことを調べ、職員の方から専門的知識を学び、最終的には自分たちで考えて、考えて、考え抜いて結論を出すというプロセスは、今後の人生に行かしていきたいと思っています。**（男性・大学院生）
- インターンシップの中で、**実際に立案に携わっている職員の方の話を聞いたり、政策講義や政務官との懇談もあり、一言で言えば、濃密な体験ができたと感じています。また、問題を抽出するために「なぜ」を繰り返して、深く思考する楽しさを知った。**（男性・大学院生）
- 経済産業省のインターンシップは、**単にグループワークをするだけではなく、立案過程で、職員や政治家などの意見も聞くことができ、さらに、実際に民間企業の現場にもふれることができる充実した1週間だと感じた。社会全体を見れるインターンシップは少なく、参加させていただき、ありがとうございました。**（女性・大学院生）
- 「日本のために」働くという志の高い職員の方と数多くお話できたことで、刺激を受けました。また「正解は無い」という政策を「自分で考える」ということを意識させられ、さらには、政策の「パッケージ化」ということも印象に残りました。**（男性・大学院生）
- 理系文系関係なく、**様々なバックグラウンドの人が集まっていて、本当に勉強になりました。**（女性・学部生）
- ミクロ・マクロ両方の視点から政策を創ることの大変さを知った。**（男性・大学院生）